

第三十三回 首都圏布教御礼祈願祭

祭典のしおり



遙拝ページQRコード

遙拝ページWebアドレス

<https://shutoken.konko.jp/live/>

二〇二三年六月十七日（土）午後一時三十分～

ごあいさつ

金光教首都圏フォーラム議長 山田信二

本日、皆様とともに首都圏布教百三十五年の御礼祈願祭をお仕えできますこと、まことにありがたいことに存じます。

首都圏布教御礼祈願祭は、天地金乃神様、生神金光大神様、歴代金光様、そして首都圏布教功労者のご霊神様に、今日までの首都圏布教の御礼と、ここからのさらなる進展を祈願する祭典です。

日本の国内はもとより世界各地において、教祖様の「世界をこの道で包み回したい」との大願が、今日まで受け継ぎ現されてまいりました。この首都圏にあつては、東京および首都圏という、教祖様の道開きとは全く異質な時代社会にあつて、時には厳しい国や社会の制約を受けながら、また時には戦争や甚大な自然災害にさいなまれる中で、いかにして教祖様のご信心による助かりを現すかに、多くの先人たちが挑戦して来られました。大きな苦痛を伴いつつも、それに勝る喜びを生み出しながら、創造的チャレンジ精神によって、この道の働きが力強く現されてきました。そして時代を経る中で、変容と創造を繰り返して、道は今日に伝えられたのです。

コロナ禍といわれる状況の中でも、私たちは苦肉の策かもしれませんが、創造的チャレンジに取り組んできました。この経験は必ず新しい道を開くことになっていくと思えます。本祭典も、二〇二〇年は中止を余儀なくされましたが、二〇二一年・二〇二二年はリモートで執り行い、今年は新しい試みとしてセンタービルに参拝者を迎え、同時にライブ配信も行います。この空間的制約を越えての祭典は、コロナ禍で得たものの一つです。コロナ禍の経験を活かしながら前に進んでいかねばなりません。

ポストコロナの時代も、いつそうに天地金乃神様のご比礼を世界に輝かすことを願い、「布教と連帯」の旗印のもと、世界の平和と総氏子の助かりに向けて、道を伝え、人を助け、世を救う活動に取り組んでいきますよう、共々に祈りをこめてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

首都圏布教御礼祈願祭 次第

☆祭典

ナレーション

祭員参向（音楽）

着席

拜礼

首都圏布教祈願詞奉唱

取次唱詞奉唱

祭主祭詞奏上（音楽）

祭主玉串奉奠（音楽）

天地書附奉体

代表玉串奉奠（音楽）

教話講師

東京センター代表・国際センター代表

首都圏フォーラム代表

各教会連合会代表

東京布教賛歌「いま日はのぼる」斉唱

拜礼

祭員退下（音楽）

☆教話

☆四十年受褒教師 紹介

☆金光大神賛仰詞奉唱

首都圏布教祈願詞

生神金光大神様の

世界を包みまわさんとの

広き心 心仰ぎつつ

われらが先覚先人の

東に道を伝えんとの

尊きみ跡偲びつつ

さびしさつのる今の世に

人を助けてわが身助かる信心を

心新たに求めゆき

けわしき加わる生活に

神を生み出す信心を

心一つに磨きあい

天地金乃神様の

ごひれい輝かさんとの大願を

おのが使命と畏みて

今こそ和賀心のときなりと

奮い立たしめたまいます。

首都圏布教祈願 首都圏布教祈願。

首都圏布教祈願 首都圏布教祈願。

首都圏布教祈願 首都圏布教祈願。

東京布教賛歌「いま日はのぼる」

一、朝はいま 朝はいま

東の空から 目をさます

ほら夜つゆをうけた花たちは

もう朝の顔 もう朝の顔

さあ目をさますもう天地が開けて

いま いま いま日はのぼる

二、朝はいま 朝はいま

東の山から 目をさます

ほら木の間うたう鳥たちは

もう朝の歌 もう朝の歌

さあ目をさますもう天地が開けて

いま いま いま日はのぼる



○首都圏布教御礼祈願祭

祭主 山田 信二 師（首都圏フォーラム議長・横浜西教会）

祭員 鈴木 一監 師（千葉県連合会・松戸教会）

○教話

講師 和泉 正一 師（東京都 白金教会）

講題 「布教と連帯」

○四十年受褒教師

岸井 茂 師（東京都 新宿教会）

嶋田 喜久枝 師（埼玉県 所沢教会）



金光大神賛仰詞

生神金光大神様（先唱者、この一句を唱う）

生神金光大神様と御神号を称えて拜みまつる わが教祖

金光大神 実意丁寧神信心をすすめ 奇しき神みかけ蒙り

たまひ 神と人といよかけよで立ち行く世界の開け行く

まにまに 尊き神依さしありて 専ら御取次仕えたもうこ

ととなりぬ かくて生神金光大神取次の道立ち 救わるる

者数えも尽きず 神の助かり氏子の難なし 神のひれい見

え 忝し 神が一礼申すと神賛えられたまひぬ 時代移り

社会は変わり 難きこと次々に起こりくるも 信心辛抱の

徳もて道立てぬきたまえば ついに天地金乃神その御神号

を現したまひ 生神金光大神差し向け 願う氏子におかけ

を授け理解申して聞かせ 末々まで繁盛いたすこと 氏子

ありての神神ありての氏子 上下立つようにいたすと神宣

らせたもう 教祖金光大神終日取次の座にましまし祈念仕

え 参来る人に信心しておかけを受け 神になれと説き論

し 一人助けければ一人の神と教え導き 神願成就に身を

尽くさせたまひぬ かくて神からも氏子からも両方の恩人

はこの方金光大神と神賛えられ 百日修行を果たし か

ねて仕えたまひてありし金光大神祭日その日神上がりま

しぬ 畏しや 教祖の神ありて取次の道は始まり 代を重

ねて道は伝わり 直信先覚先師ありて道はいや広がりぬ

ああわれら奇しき神縁を蒙り 限りなき神恩に浴しここに

教祖百四十年のお年柄を迎えまつる 尊き御一代を偲び

慕いまつりて 御徳を賛え仰ぎまつる。